ルカの福音書　67 回

神の国への入国

13：22～30

1. はじめに

(1) 文脈の確認

①ルカは、エルサレムへの旅という枠組みの中に、種々の教えを配置している。

②ルカ 13：18 から、中心テーマが「神の国」に変わった。

③神の国とは、メシア的王国（千年王国）のことである。

(2) ルカ 13：18～14：35 の内容

①神の国のたとえ話（13：18～21）

②神の国への入国（13：22～30）

③神の国の延期（13：31～35）

④食卓での諸々の教え（14：1～24）

⑤弟子の代価（14：25～35）

(3) 注目すべき点

①5 つのポイントは、すべて神の国に関連した教えである。

②しるしを目撃した群衆は、神の国がすぐに到来することを期待した。

③しかし、指導者たちがメシアを拒否したので、神の国は延期された。

④イエスは、メシア拒否と再臨の間の期間に起こることについて話された。

2. アウトライン

(1) ある人の質問（22～23 節 a）

(2) 狭い門（23b～24 節）

(3) 家の主人（25～27 節）

(4) 教えの適用（28～30 節）

3. 結論

(1) 2 つの門

(2) 緊急性の認識

神の国に入国するための条件について学ぶ。

Ⅰ．ある人の質問（22～23 節 a）

1. 22 節

Luk 13:22　イエスは町や村を通りながら教え、エルサレムへの旅を続けておられた。

(1) エルサレムに向けたイエスの旅が続いている。

①地理的情報は、話題が次に移ったことを示している。

＊使徒の働きでは、この手法が多用されている。

②地理的情報は、旅のゴールがエルサレムであることを思い出させている。

＊イエスは十字架に向かって進んでいる。

＊しかしイエスは、時間を取って弟子訓練を行っておられる。

(2)「狭い門」や「家の主人」の教えは、他の福音書にも出てくる。

①ルカは、それらの話を異なった文脈で紹介している。

②これは、イエスが同じ話を何度もされたことを示している。

③イエスの奉仕は、基本的には巡回伝道であった。

2. 23 節 a

Luk 13:23a　すると、ある人が言った。「主よ、救われる人は少ないのですか。」

(1) これは、直前に出てきた神の国に関する教えを受けた質問である。

①「からし種のたとえ」と「パン種のたとえ」は、期待外れの内容であった。

②そこで、「救われる人は少ないのですか」という質問になった。

③ユダヤ人にとっては、「救われる」とは神の国（メシア的王国）に入ること。

(2) 質問者が誰かは分からない。

①弟子の 1 人か、群衆の 1 人か。

②質問者が誰かよりも、質問内容のほうが重要である。

③イエスは、いつものように、質問を好機と捉えて、重要な真理を教える。

Ⅱ. 狭い門（23b～24 節）

1. 23b～24 節

Luk 13:23b　イエスは人々に言われた。

Luk 13:24　「狭い門から入るように努めなさい。あなたがたに言いますが、多くの人が、入ろうとしても入れなくなるからです。

(1)「救われる人は少ないのですか」という質問は、興味本位の質問である。

①イエスは、その質問に直接的には答えなかった。

②自分の救いと無関係な質問をする人は多いが、救いとは無関係である。

③イエスは、どうすれば神の国に入ることができるかを教えた。

(2) 狭い門とは、イエスの教えのことである。
①これは、評判の良くない道である。
②これは、入ることの決断が難しい門である。

(3) 広い門とは、霊的指導者たちの教えのことである。
①これは、広く受け入れられている道である。
②これは、入ることの決断が容易な門である。

(4)「狭い門から入るように努めなさい」
①イエスの教えは、にわかに信じられなくても、信じるべきである。
②イエスの教えは、迫害に遭う可能性があっても、信じるべきである。
③自力救済を教えているのではない。
④「イエスの主権に従うこと」（ロードシップ論）を教えているのでもない。
⑤救いの条件は、信仰だけである。

(5) 多くの人が、狭い門ではない門から入ろうとしていた。
①しかし彼らは、神の国に入ることができない。
②このことを説明するために、「家の主人」の話が語られる。

Ⅲ. 家の主人（25～27 節）

1. 25 節

Luk 13:25　家の主人が立ち上がって、戸を閉めてしまってから、あなたがたが外に立って戸をたたき始め、『ご主人様、開けてください』と言っても、主人は、『おまえたちがどこの者か、私は知らない』と答えるでしょう。

(1) ここでは、神の国が宴会にたとえられている。
①宴会が始まった。つまり、神の国が始まった。
②主人は、戸を閉めた。つまり、神の国に入る可能性が閉ざされた。
＊主人は、主イエス自身である（マタ 7：22～23）。
③中に入れなかった者たちは、外に立って戸をたたき始めた。
＊彼らは、イスラエルの民である。
④主人は、「おまえたちがどこの者か、私は知らない」と答えた。
＊イエスは信仰のない者たちに対して、彼らを知らないと言われる。

2. 26 節

Luk 13:26　すると、あなたがたはこう言い始めるでしょう。『私たちは、あなたの面前で食べ

たり飲んだりいたしました。また、あなたは私たちの大通りでお教えくださいました。』

(1) 彼らは、主人と親密な関係を持っていたことをアピールした。

①ともに食べたり飲んだりした。

②大通りで教えてもらった。

3. 27 節

Luk 13:27　しかし、主人はあなたがたに言います。『おまえたちがどこの者か、私は知らない。不義を行う者たち、みな私から離れて行け。』

(1) 主人は、これらのアピールを一蹴した。

①これらのことは、見せかけの関係である。

②口先だけの信仰では、救われない。

③聖書を知っているだけでは、救われない。

④イエスに関する知識があるだけでは、救われない。

(2) 主人は、厳しいことばを発した。

①「おまえたちがどこの者か、私は知らない」

＊イエスのことばを信じない者は、イエスに知られていない。

②「不義を行う者たち、みな私から離れて行け」

＊信仰がないなら、その人は「不義を行う者」である。

＊罪人は、イエスに近づくことができない。

Ⅳ. 教えの適用（28～30 節）

1. 28 節

Luk 13:28　あなたがたは、アブラハムやイサクやヤコブ、またすべての預言者たちが神の国に入っているのに、自分たちは外に放り出されているのを知って、そこで泣いて歯ぎしりするのです。

(1) 神の国に入っている人たち

①族長たち（アブラハム、イサク、ヤコブ）

②すべての預言者たち

③彼ら全員が、信仰によって神の国に入っている。

④旧約時代の聖徒たちは、復活のからだで神の国に入る。

(2) 自分たちは外に放り出されているのを知って、イスラエルの民は、後悔する。

①泣いて歯ぎしりする。

②これは、地獄を描写することばである。

2．29節

Luk 13:29　人々が東からも西からも、また南からも北からも来て、神の国で食卓に着きます。

(1) 異邦人の救いが預言される。

①旧約聖書は、異邦人の救いを預言している。

②イザ25：6～7

Isa 25:6　万軍の【主】は、この山の上で万民のために、／脂の多い肉の宴会、良いぶどう酒の宴会、／髄の多い脂身と／よくこされたぶどう酒の宴会を開かれる。

Isa 25:7　この山の上で、／万民の上をおおうベールを、／万国の上にかぶさる覆いを取り除き、

③「人々が東からも西からも、また南からも北からも来て、」

＊これは、異邦人のことである。

③「神の国で食卓に着きます」

＊これは、メシア的王国の始まりに開かれる宴会のことである。

④異邦人の救いは、ルカにとっては重要なテーマである。

＊使徒の働きの中心テーマは、異邦人世界への福音の広がりである。

3．30節

Luk 13:30　いいですか、後にいる者が先になり、先にいる者が後になるのです。」

(1) 後にいる者とは、異邦人である。

①ユダヤ人たちは、自分たちは異邦人よりもすぐれていると思っていた。

②その異邦人が先になる。

(2) 先にいる者とは、ユダヤ人である。

①そのユダヤ人が後になる。

結論

1．2つの門

(1) 狭い門

①これは、イエスのことばを信じて神の国に入る門である。

②この門から入る人は、祝福を受ける。

③信仰のある異邦人たちが、神の国で食卓に着くようになる。

④異邦人たちは、アブラハム、イサク、ヤコブとともに食卓に着く。

(2) 広い門

①自分たちはアブラハムの子孫であると考えるのは、広い門である。
②広い門から入る者は、神の国の祝福に与ることができない。
③彼らは、「泣いて歯ぎしりする」。
④これは、地獄で経験する永遠の刑罰である。
＊「泣いて」は、悲しみを表現している。
＊「歯ぎしり」は、怒りと憎しみを表現している。
⑤神の国にいる人たちを見て、外にいる人たちは、悲しみと怒りを経験する。
⑥私たちへの教訓
＊死後に悔い改める可能性はない。
＊地獄は実際に存在する。

2. 緊急性の認識
(1) 個人的終末論の視点から
①生きている限り、イエスを信じることは可能である。
②しかし、年を取れば取るほど、信じるのが難しくなる。
③また、先延ばしにすればするほど、信じるのが難しくなる。
④「今決心しなくてもよい」という考えは、危険である。
(2) 聖書的終末論の視点から
①メシアの再臨と神の国の設立は、間近に迫っている。
②神の国が始まれば、未信者が心を変えて救われることは不可能になる。
③手遅れになる前に、イエスを信じる決心をする必要がある。
④神の国の扉は、永遠に開いているわけではない。